

ひぎまいの和



令和 8 年 4 月 30 日
横浜市立ひぎり舞岡小学校
〒233-0015
港南区日限山二丁目 16 番 1
TEL 045(841)6561

子どもにとっての

「居心地」のよさ

～ セカンドプレイスとしての学校 ～

校長 鈴木 和枝

ひぎり舞岡小学校としての一日一日が積み重なり、4月が終わります。この1か月、629名の子どもたちのその一人ひとり、毎日どのようなことを思いながら過ごしてきたのだろうかと思います。

新しい学校生活はどうだろう……。

友達関係はどうか……。

「明日は何が楽しみ?」と尋ねられたら、あの子はどんなことを答えるだろう……。

ある日のこと。校長室のドアを開けて一步廊下に出てみると、二人の子どもが床にしゃがんで自由帳らしきものを広げています。よく見てみると、何やら階段らしきものを描いています。

「何を描いているの?」と尋ねると、「地図を描いているんだよ。学校の地図。あそこの階段はここにつながっていて、この廊下は……。」と自分たちが描いている「地図」を説明してくれました。真剣な表情で、まるで仕事にとりかかっているかのようなその二人は、2年生でした。

数日経った日の中休み。今度は、中央昇降口で、二人のうちの一人に会いました。今度もやっぱり真剣そうな表情でしたが、きよろきよろしています。「どうしたの?」と声をかけると、「〇〇ちゃんを探しているんだよ。さっきまで一緒だったのに、いなくなっちゃった。校長先生、見なかった?」という返事。「もう中休みが終わる時間だから、もしかしたら教室に戻っているのかもしれないよ。行ってごらん。」と言うと、「わかった!」と一目散に教室に向かっていきました。

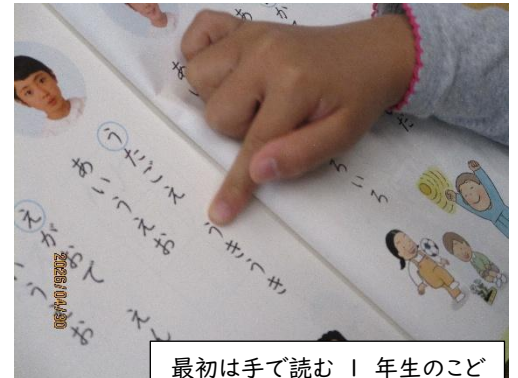
〇〇ちゃんというのは、一緒に地図を描いていた子です。ただ、この二人、以前からこんなに一緒に過ごしていた二人ではないのです。でも、新しい出会いの中で、こんな風に相手のことを自分にとっての大事な存在だと感じていて、〇〇ちゃんがいてくれるから、新しい環境でもにこやかに生活をしていることが伝わってきました。

人は、人との関係の中で、「自分」や「自分と他者の違い」について考えていくのだと思います。また、様々な体験の中で自分なりの方法で自分を表現することを通して、人とつながることの楽しさや喜び、たいへんさや難しさも学んでいきます。自分を表現できるかどうかの前提条件、それは関係性の中に「居心地のよさ」や「安心感」があるかどうかだということは確かだと思います。これがないと、安心して、相手を信じて自分を表現することはできません。

さて、「セカンドプレイス」という言葉をご存じの方も多と思います。「ファーストプレイス」とは「家庭」や「家」だそうです。次の場所が「セカンドプレイス」。それは、社会的には「学校」や「職場」などを指すそうです。時間的にも長い時間を過ごす場であり、安心して自分を表現できる楽しい場所でありたい、あってほしい場です。

子どもたちが連休後からの学校生活の中で「安心して自分の考えや気持ちを表現できる楽しい時間が増えてきた」と思えるように、子どもたちの思いや願いがふくらむような教育活動に一步一步取り組んでまいります。

すべては子どもたちのために ～ 誰のための、どんな力を育むための活動なのかを考えて取り組みます ～



最初は手で読む | 年生の子どもたち。

1年生の学習は「はじめて」がとても新鮮。声に出すことを楽しんでほしい。